

東北公益文科大学

第3次 教学中期計画

令和2年～令和7年度（6年間）

～学生を伸ばす、地域の未来を創る、世界に挑む大学づくり～

**東北公益文科大学4つの基本目標を持って、
「学習者中心」の大学としての教育活動を推進します。**

<基本教育目標>

- 1 社会の変化に柔軟に対応できる教養と専門性、豊かな人間性と高度の倫理性を備え、「信頼」と「共生」を基本に公益の社会づくりに貢献できる人材を育成します。
- 2 地域の文化・福祉・経済の発展に貢献できる人材を育成します。
- 3 グローバル化社会に通用するコミュニケーション能力・異文化理解力を備えた人材を育成します。
- 4 学長のリーダーシップの下、上記目標を達成するため柔軟な運営体制を構築します。

2020年4月1日

学校法人 東北公益文科大学

教 育

学習者(学生)中心の大学として、豊かな人間性と倫理性を養うとともに、グローバルな視野を持ちながら、地域の人々とともに、地域社会が直面する課題にリーダーシップを持って果敢に取り組む人材を育てます。

1. 教学マネジメントを強化します。

(1) 社会の変化を見据えた体系的・組織的な教育を行います。

- ・ Society5.0 や SDGs など、国内外で共有される目標に基づいて課題解決を図る力を養います。
- ・ データサイエンス教育を行い、文理横断型の学修を推進します。

(2) 卒業時の質保証を推進します。

- ・ 学生が成長を確認しながら学修を進める「学修ポートフォリオ」を充実させます。
- ・ ルーブリックの活用などにより教育内容の共通化を進めます。
- ・ ディプロマサプリメントを発行し、卒業時の学修成果を客観的に可視化します。
- ・ 学生の学修時間の向上に努めるとともに、学びの実質化を進めます。
- ・ 学修に関わるビッグデータの分析を通じた、教育課程・教育手法の改善を継続して行います。
- ・ 「公務員試験対策」「社会福祉士国家試験」の対策を強化します。

2. 新たな時代にふさわしい大学像を実現します。

(1) キャンパスの多様化と活性化を推進します。

- ・ 課外活動に取り組む機会を豊富に提供し、学修の幅を広げます。
- ・ ラーニングコモンズ等の学修環境やネットワーク環境を充実させます。

(2) 高校や他大学、地域との連携を強化します。

- ・ 国内外の他大学の学生との交流機会を増やします。
- ・ 高大接続を推進し、地域とも連携しながら、切れ目のない教育に繋がります。
- ・ 高大接続を推進し、地域人材の育成に係る連携や交流を行うプラットフォームの構築を目指します。
- ・ 地元企業と連携した課題挑戦型インターンシップを拡充します。

3. 学生支援の充実を図ります。

(1) 奨学制度を見直し、努力する学生を応援する仕組みを充実させます。

- ・ 学業と課外活動の双方で成果が上がる支援を目指します。
- ・ 在学中の努力がより反映される制度を検討します。

(2) 正課の学修では向上させることが難しいリーダーシップを涵養するため、課外活動が充実するよう支援します。

- ・ クラブ活動等における自治組織（体育会や文化会等）の構築を図ります。
- ・ 課外活動を行う学生で、賑わいを感じられるキャンパスを目指します。



研究

教員の研究活動を強化します。また、教員が確実に研究成果を発表できるよう、積極的な研究支援を行います。

1. 研究活動を推進します。

- ・各教員の研究を広く発信し、多くの研究者と議論を重ねながら「研究の質」を高め、併せて「教育の質」の向上を促進します。
- ・各教員が向こう3年間で、学会誌や本学総合研究論集等で3本の論文を公表する（概ね、1年に1本）ことを目指します。

2. 競争的資金の獲得を推進します。

- ・科学的コミュニティで切磋琢磨しながら研究力を高めるため、科学研究費補助金や各種財団助成研究等、競争的資金の獲得の向上を目指します。
- ・競争的資金の獲得に向け、外部研究者・外部団体との共同研究体制を促進し、研究の社会的発信を進めていきます。

3. 産学官連携を促進します。

- ・受託研究等を継承・発展させながら、自らの研究分野に引き付けた積極的な産学官連携をさらに進めます。
- ・各教員の研究力を基盤としながら、大学と外部機関とのパートナー関係を築き、社会的課題の解決に挑戦します。



教員の著書出版記念ギャラリートーク



平成30年度ベストティーチャー・アワード表彰式

社会貢献（地域貢献）

SDGs、Society 5.0をはじめとするグローバルな視点に基づき、本学の教育・研究の成果による社会(地域)貢献を目指します。

1. 企業、行政、NPO・NGO、地域コミュニティ組織、海外の協定締結校等との社会・地域課題解決の取り組みと、地域人材育成を推進します。
2. 自治体、地域住民とともに、環境・防災教育の充実を図ります。
3. 地域に根差した研究ブランディング事業での取り組みを継続的に行います。
4. 学部・大学院の教育プログラムと社会・地域課題解決の現場との融合を目指します。



地域でのフィールドワーク



市民向けニュージーランド講座

国際化

グローバル社会に対応し、学生の海外派遣、留学生交流を強化するとともに、国際学術交流を推進し、国際交流体制の整備を進めます。

1. 国際的人材育成について

国内外で活躍できる人材育成を強化するために、学部、大学院における教育環境の国際化をより一層促進します。

- ・英語を含む多言語教育の充実を図ります。
- ・短期及び中長期での海外留学生を在校生の一割程度になる様に目指します。
- ・海外からの留学生を15名程度になるように努め、ドミトリー(国際寮)の充実を図ります。
- ・留学生教育の充実と生活支援、学習環境の整備を促進します。

2. 国際連携協力について

戦略的に国際連携協力を促進するために、世界の様々な地域の大学や研究機関との連携協定の締結を目指します。協定締結大学の目標は当面15大学とします。そして、以下の様な取り組みを進めます。

- ・教員の海外派遣を促進し、本学の研究水準の国際化を目指します。
- ・外国人研究員、教員の受け入れを促進し、本学の研究水準の高度化を目指します。

3. 国際交流体制の整備について

地域の自治体等と連携し、国際交流制度の広報活動を活発化します。国際交流関係者のネットワークを構築します。国際化を促進する為、国際交流センターが主体となり、すべての関係機関などを通じて体制の整備を進めます。

運 営

学長のリーダーシップによるガバナンスと大学マネジメントの強化を図り、責任ある執行体制を充実させます。企画、実施、評価、改善のサイクルを明確にし、戦略的な大学運営を行います。

1. 教学運営について

中期計画期間中に、公益学部の中に国際教養学科(仮称)を設置し、積極的に国際貢献の可能な人材の養成を推進します。併せて英語教員の養成コースの設置も目指します。(学部入学定員は現行のとおり235名とし、国際教養学科(仮称)は40名程度のイメージ)

2. 大学院改革について

大学院での資格取得等について、外部試験における科目免除の可能性を模索・検討します。

- ・大学院や履修証明プログラムを通じた社会人教育を充実させます。
- ・5年一貫教育制度を充実させ、学部からの大学院進学を促進します。





〒998-8580 山形県酒田市飯森山三丁目5番地の1

電話 0234-41-1111 FAX 0234-41-1133

<http://www.koeki-u.ac.jp/>